２０１８年度活動報告

ＮＰＯ法人黒川こころの応援団

**共同生活:街喫茶寮ともさん・就労継続:nisipirica**

＜事業経営関連＞

1. 就労継続Ｂ型事業(啓発活動展開など)

●nisipirica附属展示室「にしぴりかの美術館」の企画

・4月15日～7月29日「本濃研太ダンボール彫刻展　動物が、いる。」

　作品が一般受けするもので非常に多くの、特に家族連れが来館してくれた。

延べ1000人近い入館者数だったと思われる。通常は100～200程度。

・8月20日～12月19日「<契る>×<弾く>＝ここから生れ出る色と形」

　　（関連映画上映9/22「破片のきらめき」＆作者他トークショー）

・1月11日～4月30日「“癒し”としての自己表現展－心の杖として鏡として」

　　（関連映画上映4/7「お百姓さんになりたい」＆監督対談）

　本邦初演の映画が人気を呼び上映会には満員を超える40名が入場。

・10月6日、7日の２日開催「吉岡宿にしぴりかの映画祭」（実行委員会主催）も

３回目となり、特定の期待される位置づけが出来つつある。

●nisipiricaの作品展示＆販売として、４月＝大和町「叶蔵」８月＝栗原市「風の沢」　１２月＝青葉区「中本誠司現代美術館」３月＝宮城野区「チフリグリ」各所を利用した。４月の「叶蔵」は江本幹郎さんを偲んで予想外に地元の人が集ってくれた。風の沢は年に１回の祭に合わせての開催だが生憎の天気で祭は中止。だがそれでも来てくれた特定のファンも居た。中本誠司現代美術館では館長が熱心に関わってくれ会期も延長し、最後には毎年開催の要請も受けた。展示だけだが１１月には町民文化祭にも参加した。また秋田県の旅館「お宿　山の抄」さんの販売協力も継続してくださった。

通所利用者は減る一方で、一人大和町在住の主婦が来たが続かなかった。パンフレットも新しく作ったのでＰＲを強化したい。ＧＨ利用者の日中利用は安定的なので新設ＧＨの効果は期待する。

－1－

●織り以外のアート活動として陶芸も始めたが、主として担当していた職員が担当から退き（年度末で退職）、十分に手が回らなかった。造形の柱である集団制作としては壁画を再び行い、箱造形、タペストリー制作に取り組んだ。継続して工夫。

●喫茶店営業・物品販売は、美術館集客力の影響を期待したかったが収益増にはつながらなかった。むしろ主となる客＝利用者減で減収となった。券売機・セルフカフェは定着し効果を表しているが、常連さんの回復は無かった。廃家電回収業務は特定の利用者にとって独り立ちへの足掛かりを期待したがつながらず、春からは複数の利用者による新しい体制で取り組んでいる。

-2-

1. グループホーム(増設と利用者の変化)

-2-

●次期職員確保のための長期インターンシップ用とは別に、女性２名の空きがあり２名の利用があった。しかし、いずれも正式利用開始直後に問題が発生し退去となった。

●男性に関しては新築による一部解体に伴い入居者を押さえていたが年度途中職員をアパート生活に切り替える事により新しい利用者を一人確保できた。また、別に一人をサテライトに出したが、これは、そもそも問題を抱えた人だったので続かずに退去となった。（表面的には一般就労による利用終了）

●懸案の街喫茶寮ともさんの解体・新築については国庫補助に替り宮城県独自のグループホーム整備事業としての内定が出たのだが、過去の補助金事業に関わる土地建物について、2014年借入の抵当権設定届けが未提出と判明。その確認が必要となり、再び着工が遅れることになってしまった。結果は減価償却完了と判断され問題なく進んだ。仙台銀行・日本政策金融公庫からの融資も認められ入札も無事行われ、東北ミサワホームが施工することになったが、着工は2019年４月となってしまった。解体は補助事業ではないため終了している。順調にいけば秋には６人の新入居者を受け入れられる。共同生活援助でも就労継続支援でも、その後の収入の伸びを期待したい。

●各ホームには職員が入居する形を取っているが現時点では街喫茶寮はるに一人入居しているだけとなっている。次年度の新人の訓練の場として引き続き活用したい。

1. 職員体制の変更

●ますます厳しい求人状況の中、リクナビを活用し次世代のために新卒採用を目指している。昨年度採用は２名（男女）だったが問題のある女性は６月には退職を決めた。また2017年採用の男性職員が就労意欲をなくしたため年度途中で正規雇用から非正規雇用に切替え緩い勤務体制にして様子を見てもらった。最後には再び雇用される事を願うような意思も示していたが、結局年度末で退職した。入替で年度末にエンゲージから高卒就労経験者（男性）が入ってきた。少々変わり種で期待したい。

●勉強会は毎週２回とも全職員が参加し、別に一部不参加の企画会議を週１回開催の充実した職員会議を継続し、日々のメール、チャットも活用している。理事長は企画会議には参加ぜず、具体的支援の場でも理事長が表に出ない事を増やし次世代の職員たちが中心に進める場面を増やしている。今後とも質の良い職員を育てていくことを将来に向けての最大の課題としていく。継続して世代交代が進んだ年と言える。

・今春、正(準含む)職員は50代女性１名・40代女性１名・20代女性２名・30代男性１名、20代男性3名（内一名は立場上はパート職員）。(別にパート職員３名）実質的に男性が多い傾向は続く。若手女性不足。

＜事業効果関連＞

1. ＧＨ利用者

●街喫茶寮ひめは、ひめ会議という話し合いの場を持つことが不可欠で、それでギリギリバランスを取っている難しい集団。春先に入居してきた癖のある関係性を持ちにくいタイプが、新人女性職員と陰のバトルをしていた。新人職員の問題も大きく報告されずに進んでいたのは影響が大きかった。他にもいろいろあったが年度末に受け入れた女性が相談事業所等の話と違って本格的な「自閉症」の人だった。本来主眼とする対象ではなく職員もかなり苦労し勉強になった。体験の一月間は無事安定していたが、結局近隣に迷惑をかけるようになり正式契約後まもなく退去してもらうことになった。相談事業所もしっかりと動いてくれた。

-3-

●街喫茶寮ともさんは、新築のため最大４名の利用になっているが、その中で最初からトラブルを起こしていた入居者が、救急車を呼ぶ・隣室に迷惑をかけることを繰り返すためにサテライトを利用し、一人暮らしを目指す形にした。一旦安定したが間もなく、やはり警察や救急車を呼ぶトラブルを繰り返す中、家賃支払い不能事態となり、契約解除とした。彼としては勝手に契約してきた入寮できる会社への就職となった。

●街喫茶寮はるは新人職員のテコ入れもあり、はる会議を通して、初めてのホーム内での調理・会食を実現し、街喫茶寮はる全メンバーによる日帰り旅行も実現した。それぞれのホームの変化が見られて面白い。その中で一人ひとりにも微妙な自分らしい変化が見られる。

●下宿型大友ハウスでトラブルを起こしていた人は自分の夢である大型の車購入を支援者の支えにより実現できてからは嘘のように大きなトラブルがなくなり一般就労も比較的安定した。ただ年度末にはそもそも抱えていた身体的問題が発生し、新たな局面を迎えたのかもしれない。

1. 日中利用者

●集中して織るタイプは「働いてるぞ」という上下意識が強い特徴があり、その中心的な人が2017年に自ら辞めて以降、当事業所スタートから紆余曲折を繰り返していた人が自己主張を強くしたというか混乱した状態になり振り回した。見下していたＧＨ入居も体験し、家族・町障害福祉課・包括支援センター・警察・相談事業所など幅広く巻き込んで、事業所や仲間を罵倒したり持上げたり忙しくしたうえで他事業所利用に移った。まだ休みの日には喫茶に顔を出している。

●高次脳機能障害の通所利用者が３名いるが、そのうちの一人が状況としては認知症が進んでいくような状態になっていた。医者いわく癲癇の症状だという。分からないものだが現象としては同じで理解力判断力が急激に減退し、別人のような変化をしていったが、利用者仲間もそれを受け入れ丁寧に対応を重ねてくれた。半年に一回ほどの意識障害も事故に至らず済んだ。その中で介護保険利用への移行を各所と連携を図って進め、本人が不安にならないように仲間の協力も得て、この春に無事、医療保険サービスへの移行を果たした。一つの混乱もなく機嫌よく移行できたことはめでたく、また職員にとっても仲間にとっても記憶すべきよくやってくれた事だと思う。

＜そのほか＞

●「吉岡宿にしぴりかの映画祭」

当初の考えとは違う形で一般市民の活動として開かれた組織として３回目の開催が出来た。社会で普通に生活していて、むしろ元気な人が定期的に事業所に出入りしている事がプラスなのかマイナスなのか分からないが、一つの特徴と言える。

-4-

●前述の「自閉症」の人が近隣トラブルを起こし一部の不満訴えがあった。区長や仲良くしてくれている近隣の方々と、今後、若手職員が関係構築していく事も課題。

-4-

**法人運営の報告**

新築計画について

●昨年度一昨年度２度に渡って総会承認を得られたＧＨ新築案件も、前半で報告した通り平成３０年度宮城県グループホーム整備事業補助金２千万円余りを得られ、過去の抵当権の問題もクリアし、延び延びになった新築工事着工が、この４月に行われた。

　新築定員増に伴い、各ホームの位置づけを再検討し活用を進めたい。

街喫茶寮ともさん

共同生活援助事業（グループホーム）ユニット（2019年5月9日現在）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ユニット名 | 住所 | 入居利用者数・職員数 |
| 街喫茶寮ともさん | 吉岡字館下４７ | ４名（男性） |
| 街喫茶寮ひめ | 吉岡字館下４７―２ | ７名（女性）、空き１名 |
| 街喫茶寮はる | 吉岡字館下５４－１ | ３名（女性）、空き１名３名（男性）・１名（男性） |
| 大友ハウス | 吉岡字白鳥５ | ２名（男性）・ |
| サテライトひめ | 吉岡南2-6-1吉岡ハイム2-205 | １名（女性）本体＝ひめ |

法人職員名簿（2018年5月19日現在）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 性別等 | 年齢 | 業務 | 採用年等 |
| １ | 女性（正職員） | ５９ | 就継サービス管理責任者 | Ｈ１５年 |
| ２ | 女性（　〃　） | ４０ | 事務員　生活支援員 | Ｈ２０年 |
| ３ | 男性（　〃　） | ３０ | 共生サービス管理責任者 | Ｈ２３年 |
| ４ | 女性（　〃　） | ２８ | 専任就継職業指導員 | Ｈ２５年 |
| ５ | 男性（　〃　） | ２５ | 共生・就継目標工賃達成指導員 | Ｈ２９年 |
| ６ | 男性（　〃　） | ２４ | 共生・就継目標工賃達成指導員 | Ｈ３０年 |
| ７ | 女性（準職員） | ２３ | 共生専従生活支援員 | Ｈ２８年 |
| ８ | 男性（準職員、パート） | ２３ | 共生・就労、生活支援員 | Ｈ３１年 |
| ９ | 女性（準職員、パート） | ４５ | 共生・就継、調理員・清掃員 | Ｈ２６年 |
| 1０ | 男性（　　　〃　　　） | ５７ | 共生・就継、生活支援員 | Ｈ２０年 |
| 1１ | 男性（　　　〃　　　） | ６６ | 共生・就継、生活支援員 | Ｈ２７年 |
| 1２ | 女性（業務委託） | ６４ | 共生、世話人 | Ｈ１８年 |
|  | 理事長 | ６０ | 共生・就継、生活支援員 |  |

-5-

-17-